

矢野千紘 助教・修士(人文科学)	E-mail	yano@matsue-ct.jp
	専門分野	日本上代文学

対応可能な分野
1. 日本古典文学研究 上代を中心とした古典文学作品の研究
2. 上代文献における文字表現の研究 上代文献における文字表現と日本文化との関わりの考察

研究内容

■上代文献における文字表現の研究



『古事記上巻』写本国会図書館蔵

4, 5世紀に大陸から仏教とともに漢字が伝わって以来、わが国における記載文学が始まりました。それまで口承されてきた神話や伝説が文字で、それも漢字のみを表現手段として記されるとき、古代人の思考や習俗、信仰はいかに織りなされていたのでしょうか。字義や用字を一つ一つ読み解くことによって、古代人の心性、さらには日本文化の豊かな深淵を追求することを研究テーマとしています。

■『古事記』に表れる名の研究

現在は最古の書物である『古事記』を中心に、上代文献に表れる名の描かれ方についての研究をしています。名と人類の関わりは古く、名は古代人の信仰の様相を示唆するものでもあります。信仰の対象（神、人、土地、自然）に名を与え、さらにそれを原義に見合う漢字で表記することは、古代日本人にとっても最重要課題であったはずで、「郡郷名に好字をつけよ」との官命に応じて作成された『風土記』はもとより、『古事記』においても人名には一字一字に漢字の音をあてた万葉仮名が用いられるなど、名の表記に対する並々ならぬ関心が見て取れます。名や命名に対する関心の高さは現在も健在で、毎年出版される膨大な名付けに関する書籍がそれを物語っています。ゆえに古代における名の研究は、現代まで受け継がれている日本人の心性の起源を訪ねることにもつながると考えます。

主な使用機器・設備など
特になし
産学連携に関する実績
特になし